

のり養殖通報第9報

千葉県水産総合研究センター東京湾漁業研究所

千葉県農林水産技術会議 平成31年1月23日発行

[気象・海況]内湾は植物プランクトン増加，富津岬南部には沖合水波及継続

- 1月は冬型の気圧配置の日が多く気温はほぼ平年並み～やや高めで推移している。また千葉市の1月の降水量は2mmで平年(35mm)の1割以下にとどまっている。気象予報では、今後も周期的に冬型の気圧配置が強まり気温は平年並みの日が多く晴天が継続すると予想されている。
- 1月21, 22日の観測では、表層水温は内湾が8～11℃台で前年並み～1℃程度高め、内房は沖合水が波及し、下洲～大貫では前年より3～5℃程度高い14～16℃台となっている。内湾では植物プランクトンが増加し透明度が低下し(優占種はスケルトネマなどの小型の珪藻)，その影響で盤洲以北ではリンの値が極端に減少した。内房では沖合水の波及によって窒素，リンともに減少している(表1)。
- 新富津漁協自動観測ブイによる観測値では、12月下旬以降沖合水の波及が強まり水温は断続的に17℃まで上昇した。1月中旬に入ってから一旦波及が弱まったが1月15日以降は再び16℃台の水塊の波及が続いている。

[今後の留意点] 栄養塩の動向に注意

- 現状では乾ノリの顕著な色調低下は生じていませんが、内湾では植物プランクトンが増加、内房では沖合水波及によって栄養塩が減少しています。今後も降雨が無く晴天が継続した場合、さらなる減少による色調悪化が心配されます。動向に注意して下さい。
- 富津岬以南では沖合水の影響で水温が上昇し、魚類の食害対策が必須となっています。岸よりの漁場など比較的水温の低い場所を有効に活用し、対策を施しながら状況好転を待ってください。

本情報は東京湾海象情報システムよりダウンロードしてご覧ください。
 次回は2月5日頃発行します。

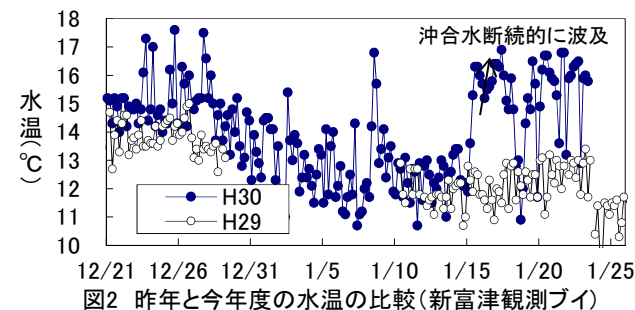
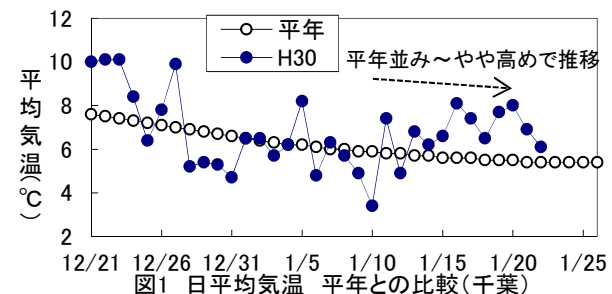


表1 水質観測結果(内湾 1/22, 内房 1/21)

	水温	塩分	pH	透明度	窒素*	リン**
船橋	8.6	31.5	8.6	3.7	294	1未満
盤洲Cブイ	10.3	31.8	8.5	2.6	298	1未満
盤洲Bブイ	9.5	31.9	8.5	2.5	286	1未満
盤洲Aブイ	10.0	32.2	8.5	3.0	291	1未満
富津ベタ	11.2	32.3	8.3	3.0	359	10
2海ほ下	11.1	32.8	8.3	3.7	293	12
1海ほ下	12.8	33.5	8.6	3.8	211	11
下洲ベタ	16.1	34.8	8.4	底	47	5
大貫ベタ	14.9	34.7	8.3	8.0	42	5

*溶存無機態窒素 (μg/l)、**リン酸態リン (μg/l)

※高色調のノリの生産に必要なレベル 窒素 110 リン 8

ノリの色調の保持や健全な生育に必要なレベル 窒素 90 リン 5